

## 1 2 月 2 日 第 7 8 回定例会（第二回公開勉強会）

### 講師への事前質問

- 第一回の勉強会において『ほぼ全ての物質、物体が放射線物質である。人体も放射線を出している』との説明があった。あたかも、核分裂 etc で放出される放射線と同じような、印象を受けた。  
『放射線』は安全と言わんばかりで、数字、量だけが問題との説明があった。私は違うと思うのだが、崎山先生はどうお考えでしょうか。自然に現存する放射線との違いについてお願いします。
  
- 過去に世界的な原子力発電所の運転時で起きた事故に、米国での「スリーマイル島」とロシア（旧ソ連）での「チェルノブイリ」の事故が思い出されます。この事故にて、地元の人々が多数被曝し、死者や負傷者が出て、この被曝者の一部の方々が日本に来て治療を受けて帰国しております。この大変な事故での被曝者のその後の生活状態と、この地域の状況を出来たら、今後、日本で万一発生した時の参考に大いになるものと存じますので、“放射線の人体への影響”という点より、関係して専門家の意見を賜りたく存じます。
  
- 内部被曝について
  - ・ 内部被曝の危険性について  
 $\alpha$ 線や $\beta$ 線のような荷電粒子による内部被曝の方が $\gamma$ 線やX線による外部被曝に比べて電離作用が強く、しかも体内の同一部位に長期間に亘って持続的に照射されるため、同じ線量を被曝しても傷害作用がはるかに大きいと言われていたがいかげんでしょうか。  
(『内部被曝の脅威』肥田舜太郎、鎌仲ひとみ著などを参照)
  
  - ・ 内部被曝の隠蔽性について  
体内に取り込まれた放射性物質から出る $\alpha$ 線や $\beta$ 線は体外からは検知できないので、被曝線量やそれによる傷害の程度を知ることができず、従って被曝の事実を知って対処することさえ難しいのではないのでしょうか。
  
  - ・ 内部被曝の過小評価について  
『内部被曝の脅威』という本によると放射線の傷害作用の評価は広島、長崎の原爆傷害の調査が元になっており、その調査では外部被曝の傷害作用のみで評価され、残留放射能による内部被曝の傷害作用が全く評価されていなかったそうです。その結果、今でも内部被曝の危険性が著しく過小評価されているとのことですが、いかげんでしょうか。